

◆第1回参観日を行いました◆

平成28年4月30日(土)



本校では毎年最初の参観日は、1時間目に担任による国語や算数の授業を見ていただき、その後、学級懇談、教育後援会総会、1年生の保護者対象の食育研修会を行っています。

授業参観では、進級して初めての参観日なので、がんばっている姿を見てもらおうと、朝からいつも以上にはりきっている子がたくさん見られました。1年生も、かっこよく発表している姿を見てもらい、とても満足していました。その後の学級懇談では、「学校での様子を知ることができて良かった。」「落ち着いて授業を受けていて、発表も頑張っていたので安心した。」などの感想をたくさん頂きました。

教育後援会総会のあとに行われた食育研修会では、1・2年生に週1度提供している行事食でどのような力を子どもたちにつけていきたいと考えているかといったこと、毎日のお弁当で心がけていただきたいことなどについて研修しました。



◆2年生 おいしく育て わたしの野菜◆

平成28年5月6日(金)



5月6日は、予定していた遠足が雨天のため延期になり少しがっかりしていた子ども達でしたが、生活科の時間に、楽しみにしていた野菜の種や苗を植えると聞き、大喜びでピオトープへ出かけて行きました。

サツマイモの苗を一人一本ずつ手に持ち、やさしく寝か

せるように植えてあげました。その後、野菜の種をポットに植えました。1年生の時にアサガオの種を植えた時のことを思い出しながら、ふかふかのベッドを作ってあげていました。キュウリ、ゴーヤ、ピーマン、トウモロコシ、オクラなど自分達が育ててみたい野菜達が芽を出す日が待ち遠しい子ども達です。普段、何気なく食べている野菜ですが、一生懸命お世話をする中で、お世話の仕方を知るだけでなく、季節の変化と野菜の様子の変化との関係に気づいたり、気づいた変化を友達や家族に紹介したりしながら、質の高い気づきへと高めていきます。これから気温もぐんぐん上がり、野菜もどんどん成長していくことでしょう。子どもたちは、水やりに忙しくなりそうです。



「子ども理解のための聴き方」

人の話を聴くということは大変難しいことだと言われています。このように言つと、「とつとつ」「とつとつ」「とつとつ」と思われるかもしれませんが、しかし、人間はそもそも人の話なんて聴いていません。それは、聴いている人自身が自分の考えをもっているからです。私たちは、ひとそれぞれ独自の価値観や見方・考え方をもっていて、そのフィルターを通して相手の話を聴いているのです。そのため、自分の都合のいいように解釈して人の話を聴いています。

これは、しばしば「思いこみ」という勘違いを生むことがあります。このことを認識して子どもの話を聴くことが、子どもを理解する上でとても大切なことです。そして、子どもの話を聴くことは三つの利点があります。一つ目は、子どもの情報を手に入れることができることです。子どもの情報が手に入ると、子どもの理解につながります。二つ目は、子どもの存在を肯定する行為であるということです。子どもにとって、親や先生が自分の話に興味を持って耳を傾けてくれることほど、自分を大切にしていると感じることはありません。三つ目は、子どもとのよい関係が維持できるということです。自分の働きかけに反応してくれたとき、子どもは受け入れられているという安心感から、積極的によりよい関係を保とうとします。

では、どのように子どもの話を聴けばよいのでしょうか。気を付けておかないと、先に説明したように思いこみにより結果として、非難や説教という反応をしてしまいがちです。そこで、我々が子どもの話を聴くときには、まず、黙るということです。黙ることによって、私たちが子どもがどんな思いで話しているのか考えたり、本心を聴き取る余裕が生まれたりします。我々大人はしゃべりすぎるというところを知っておきたいものです。次に、理解するために、子どもの言葉を繰り返すことです。このことにより、子どもは、話を聴いてくれていると感じ、心を開きます。最後に、感情の反射です。子どもの感情を会話からくみ取り、例えば悲しそうであれば「悲しくなっちゃったのね。」「などのように話すことで、子どもは自分のことを理解してくれていると感ずるのです。

私が子どもたちと接するなかで気を付けていることの一端を、参考図書を用いながら紹介させていただきます。

参考図書：「子どもの心のコーチング」菅原裕子著エッセイ文庫
2年生担任 森下 エミ

ぎんがの郷タイムス第2号は6月上旬にお届けする予定です。